CampbellCollaboration

Plain Language Summary
International Development

2016

コミュニティ監視介入は汚職を減少させることができ、サービスを向上させる可能性がある

コミュニティ監視介入は汚職を減少させることができる。すべてではないが、いくつかのケースでは、保健と教育においてプラスの効果があった。今後の研究では、効果的な介入に関する、状況とデザインに関する理解が必要になる。

レビュー研究は何を行ったのか？

サービス提供における汚職と非効率的な資源配分は、低・中所得国で広がっている。コミュニティ監視介入（Community monitoring interventions : CMIs）はこの問題に対処することを目指している。コミュニティには、サービス提供を監視すること、つまり提供者や対象となる政治家へフィードバックするために提供者の実績の観察・評価に参加する機会が付与されている。

このレビューではコミュニティ監視介入が汚職とサービス提供の成果のアクセスと質に対して与える効果に関するエビデンスを評価している。レビューではまた、CMIが汚職やサービス提供の成果の変化に影響するメカニズムや、地理的領域、所得水準、介入が実施された期間の長さなどの緩和要因についても検討している。

どのような研究が含まれているのか？

汚職に対する効果について評価するために、ここで含まれる研究は実験的デザインもしくは疑似実験デザインのどちらかをとる必要があった。メカニズムと調節要因について評価するために質的研究も含まれた。

このレビューでは、23の異なるプログラムによる介入の効果に関する15件の研究が評価された。研究は、アフリカ（6件），アジア（7件），中南米（2件）で実施された。大部分の研究は、教育部門におけるプログラム（9件）に焦点を当てていて、次いで健康（3件），インフラ（2件），雇用促進（1件）であった。

コミュニティ監視介入は、市民と提供者の間で直接的接触が促進されたとき、より効果的である可能性がある

このレビューについて

このキャンベル系統的レビューは、汚職の抑制におけるコミュニティ監視介入による効果について評価している。このレビューでは15件の研究から得られた結果（7件はアジア、6件はアフリカ、2件は中南米で行われた）について要約している。

Photo: Pippa Ranger, Innovation Advisor, DFID (CC by 2.0)

このレビューはどれくらい最新のものか？

このレビューの著者らは2013年11月までに発行された研究を検索した。このキャンベル系統的レビューは、2016年11月に発行された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを公開している、国際的・自主的・非営利の研究ネットワークである。我々は、社会および行動科学のプログラムに関するエビデンスの質を評価し、まとめている。我々の目的は、人々がより良い選択そして政策決定ができるように手助けをすることである。

この要約について

この要約はハワード・ホワイトHoward White (Campbell Collaboration)によって執筆されたものである。この要約はCampbell Systematic Review 2016:08 “Community Monitoring Interventions to Curb Corruption and Increase Access and Quality of Service Delivery in Low -and Middle-income Countries: A Systematic Review” by Ezequiel Molina, Laura Carella, Ana Pacheco, Guillermo Cruces, and Leonardo Gasparini (DOI: 10.4073/csr.2016.8)にもとづいている。レイアウトはタニヤ・クリスチャンセンTanya Kristiansen(Campbell Collaboration)よってデザインされた。この要約作成にはAmerican Institutes for Research for the productionの財政支援を受けた。ここに謝意を表する。

このレビューにおける主な結果は何か？

コミュニティ監視介入は汚職を減少させることができる。CMIは公共医療の利用も促進するが、就学や中途退学については有意な効果はないことがわかっている。また、健康サービスの待ち時間については改善がみられなかったが、年齢ごとの体重については改善された。一方で子どもの死亡率については改善がみられなかった。試験の得点で測定した教育成果には有益な効果があった。

CMIによって市民がサービスと提供者や政治家と直接的に接触する機会を促進された場合、また市民がサービス提供者や政治家のパフォーマンスを監視するツールを含む場合に、アウトカムの改善に効果的であると考えられる。

すべてのケースにおいて、調査結果は少数の研究にもとづいている。保健と教育に関する不均一性が調査結果には存在している。したがって、介入の効果について、なんらかの強固で普遍的な結果を導き出すことは困難である。

どのような研究が含まれているのか？

エビデンスによって、コミュニティ監視介入は有望なものであることが明らかになった。つまり、CMIは効果的であるというエビデンスが存在する。しかし、そのエビデンスは十分ではなく、介入がすべての状況でうまくいくわけではなく、いくつかのアプローチがほかのものよりも有望であると考えられる。

今後の研究では、こうしたプログラムがいつ、どのように成果を改善するうえで最も効果的であるのかを明らかにするために、異なる状況、部門、期間の効果について評価を行うべきである。監視のプロセスにおいて市民の手助けとなるような、適切な情報とツールが必要である。CMIの効果に関するこうしたメカニズムや有効性の適正化の研究は今後、この分野の研究において優先されるべきである。

AIR
American Institutes for Research

3ie International Initiative for Impact Evaluation